

渋い山と明るい山 2016 交流ハイク

《要害山・大蔵経寺山・羅漢寺山》

西 正子

恒例となった、「秋の交流ハイク・一泊二日」。今年も、石和温泉に泊まり、甲府の里山を巡った。

樹林がちながら山梨百名山の要害山、大蔵経寺山。昇仙峡の西に位置し、花崗岩の岩形が楽しい羅漢寺山。渋い山と明るい山。対比の2日間は、参加者も多く、にぎやかな山行となった。

◎要害山～大蔵経寺山

●2016年10月29日(土) 晴れのち曇り

●メンバー

島崎 横堀 西A 西M 斉藤整 白井 八木

●コースタイム

積翠寺温泉(9:50)→要害山(10:20)→深草観音(11:15)→大蔵経寺山(14:00)→石和温泉駅(15:40)

甲府から登山口の積翠寺温泉までは、タクシーで20分ほど。2件の宿の間に立つ標識に従い、登山道に入る。

すぐに小広い要害山(780m)山頂に着く。武田信玄が生まれたという伝説の城跡で、あちこちに、土塁、石垣、堀の形跡が見える。

そこから先は、なんとも変わった道がつづいていた。地形に忠実にひたすら山腹をトラバースするようにコースがつけられているのだ。しかもその地表がきれいに掘り起こされている。お百姓さんが丹念に鋤を入れたような、ほこほこ道なのだ。

「この地面、イノシシが掘ったのかな？」

「そういえば、鉄砲撃ちの人もいたね」

「この道は、要害山の城から密偵が走る裏街道なんだよ。だから目立たないように、山腹なんだよ」

「そういえば、山全体がうっそうとして、人目に付きづらいね」

などと言いながら、ふしぎな忍者道？を歩く。

単調な登山のアクセントが、途中に立つ「深草観音」だ。大岩の頂上部を穿って観音堂がつくら

れている。お参りする人は、長い垂直の鉄梯子を登らなければならない。そして今年もやっぱり白井さん。代表で、てっぺんに立ってもらうことになった。

この観音様は、甲斐国観音霊場六番に選ばれていて、1000年以上の歴史があるものだという。あたりは全体に苔むして、なにやら霊験を感じる。

951m地点からは、ようやくふつうの尾根歩きに変わってくる。小さな登り下りを繰り返して、少し標高を下げた場所が大蔵経寺山(716m)だった。ここも目立つ山頂ではなく、森の中に三角点と標柱がある地味な場所だった。

石和の街へとぐんぐん下る。途中からは眺めが得られ、家や駅が小さな模型のように見える。背景は御坂の山並みだった。



◎民宿やまと

交流ハイクの宿選びは、なかなか難しい。高額なのは×。かといって、貧相すぎてもいけない。

その点、今回の「民宿やまと」は合格点だろう。数人が一度に入れる湯船は、まったりと柔らかい湯が満ち、気持ちが良い。

食膳には、甲州名物の「ほうとう」「馬刺し」「鳥もつ」がひとつとおり並び、旅行気分が盛り上がる。

建物じたいは古いが、一泊二食で 8450 円。翌日の昼食「おにぎり 2 個で 200 円」も良心的だと思った。

夕食では、松田さんの百名山完登を祝ったのち、亘さんが、すばらしい才能を披露した。食べ終わったほうとう鍋にご飯を入れ、雑炊をつくってくれたのだ。玉子を入れるタイミング、手際のおよさとおいしさは、(行ったことはないが)高級料亭にも引けをとらないものだった。

会長とは、日の丸弁当の梅干しくらいの存在だと思っていたが、やはり、いざという時は立派に、皆に貢献するものだと、あらためて感心した。

◎昇仙峡・羅漢寺山

●2016 年 10 月 30 日(日) 曇りのち晴れ

●メンバー 島崎 横堀 斎藤亘 西 A 西 M 松田 斎藤整 岩田 白井

●コースタイム

昇仙峡口(10:05)→白山(11:45)→白砂山(12:15)→羅漢寺山[弥三郎岳](13:25)→昇仙峡滝上(14:55)

昇仙峡も観光シーズンをむかえた。運よく臨時バス「石和温泉駅→甲府駅→昇仙峡・直通バス」に乗車できた。

約 50 分で登山口に着く。昨夜の雨も止み、どんより空だが、湿った空気が暖かい。

最初の橋から山道をジグザクに登り出す。すぐに車道歩きとなり、しばらく行ったところで、ふたたび登山道に入る。あまり歩かれていないようで、赤布を探しながら、進んでいく。

「外道の原」と呼ばれるかつての開拓地を過ぎたあたりから道が怪しくなってくる。たくさんの倒木が、道を崩し壊している。「あっちだ」「こっちだ」と言いながら、枝や幹の間をくぐり抜け、急斜面をはい上がった。

尾根に出ると道は再びはっきりした。登山道からは、昇仙峡が見えるわけでもなく、森の中を淡々と歩く。少し単調だ。だから、途中枝道に入り、「白山」や「白砂山」に行くことにした。

支尾根の先端に位置する二山は、白いザレ地と

奇岩、怪岩が林立する楽しい場所だ。遠回りになるが、素通りするのはもったいない。岩間には形のよい松の木が生えていて、何やら、大きな盆栽の中にいるような気がする。

朝方のどんよりした空にも、少しずつ日差しが戻ってきた。太刀岡山や茅ヶ岳も手に取るような近さで、甲州地域の山の位置関係がよくわかる。

後から知った話だが、昇仙峡はもともと花崗岩と松の緑の対比がウリだったそうだ。ところが火事で多くの松の木が焼け、その跡地に、今度は落葉樹が生えそろう、紅葉の名所にもなったということだった。

パノラマ台はロープウェイ上駅だけあって、立派な観光地だ。たくさんの人に混じり、昼食をすませた後は、本日の最高峰、弥三郎岳(1058m)へ向かった。

花崗岩の明るい道をたどり、往復 35 分の道のりだが、ここまで来る人はほんの一握りだ。急階段を上がり、かわるがわる立つ狭い山頂は眺めがよい。甲斐駒ヶ岳や鳳凰三山が遠望できた。

最後の下山。北にすすむ道は、車も入る林道だった。道が大きな車道に出たところを右に折れ、昇仙峡滝上(ロープウェイ下駅)まで、のんびりと歩いた。紅葉には早い、気の早い何本かは、もう色づいていた。

帰りのタクシーからは、その日はじめて、雲一つない大きな富士山が姿を現した。アカマツの多い道なのに、マツタケがひとつも取れないを気の毒がって、神様が素晴らしい景色をプレゼントしてくれたのかもかもしれない。

